

水戸南高等学校の被害状況について

水戸南高等学校 教頭 村田一弘

1. 当日の学校の状況（日程，授業，在校者数，行事等）

昼間制 履修指導（面談）のため，授業は行われず，登校していた生徒はごくわずかである。卓球部の生徒数名が，卓球場で卓球を行っていた。

夜間制 授業日であったが，地震が発生したのは登校時間前で，生徒は登校していない。

通信制 13日（日）の卒業式に向けて職員全員で会場準備等を行った。

2. 地震発生時の様子：校内の状況（ゆれの状況，建物の状況，負傷者，生徒の様子など）

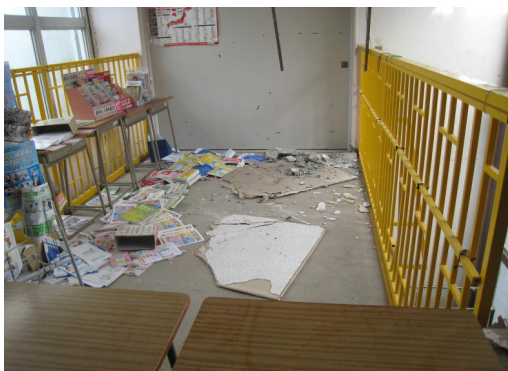
激しい揺れがあり，多くの机や家具が移動した。机上の書籍・書類や図書館の本棚の本は床に落下した。昇降口（吹き抜け）のガラスが割れ，壁にひびが入った。卓球場の天井がすべて落ちたが，生徒は危機一髪で屋外に脱出した。全員無事であった。

3. 地震発生後の対応（待機・避難の様子，避難場所の様子）から生徒の下校まで。

卓球場の生徒は自力で，一部の生徒に関しては教員が自宅まで送り届けるなどして帰宅させた。夜間制の生徒の一部が登校したが，停電していたため下校させた。いずれにしても，少人数であったため大きな混乱はなかった。

4. 校舎内及び敷地内の被害の状況

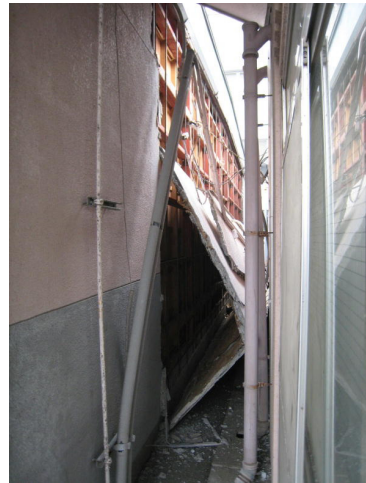
校 舎 管理棟 玄関窓ガラスの破損（15枚），2階通路天井落下，壁面の破損



普通教室棟 高架水槽破損漏水，
壁面の破損



特別教室棟 2階廊下天井給水管破断による漏水，音楽室・視聴覚室天井落下
卓球場 天井全面落下，外壁面の崩落



体育館 ステージ天井のコンパネ落下，内壁破損，照明破損，外壁落下



コンパネの破片がステージに突き刺さっている



格技場 2階天井蛍光管及び天井材落下、床の破損
屋 外 受水槽の接続管破断による漏水、駐車場などの亀裂、崖の崩落

5. 学校周辺地域、及び近隣の被害状況

液状化は上市以上に深刻で、駅南大通りの交差点は車道の片道を覆うほど水が溢れていた。看板の崩落や建物の部分崩壊が見られた。市内にあるコンビニは停電の中、営業を続けており、当面の食事を確保しようという住民が列を作っていた。

安全上の問題から、水戸駅のペDESTリアンデッキから改札前の連絡口まで全面立ち入り禁止になっていた。駅南のロータリーも、タクシーの行列以外は閑散としている。水戸市役所には、配給用の食品や日用品が集められ、人々が列をなしていた。

道路は舗装路が波打ち陥没し、所々にひび割れ、橋脚のずれ等破損箇所多数あり。また、路肩の電柱は傾いてしまっているところがあった。

水戸市役所では、窓ガラスの破損や歩道の陥没など破損多数で使用不能となった。

JR水戸駅では、歩道の陥没や歩道橋の破損及び線路の曲がりや破損が多数見られた。

6. 地震後、学校再開まで

中止の連絡手段がなかったため、通信制の卒業式を予定通り 13 日に体育館使用不能のため特別棟多目的室にて実施した。卒業 152 名の内参加者は 14 名であった。

3 月 11 日以降の授業は休校となり、22 日に終業式を実施したが、JRが不通でありガソリンの入手が困難な状況で、夜間制 17 名出席 23 日に二次学力検査を実施した。

昼間部・夜間部とも 4 月 11 日より遅れての新学期スタートとなったが、夜間部は登校させたものの大きな余震が起きたため、すぐに下校させた。12 日から平常通り実施した。

通信制は、4 月 10 日に始業式を放送により実施した。

本館 2 階通路は、被害大きく通行不可となり 9 月まで教室移動には 1 階をまわっての移動を余儀なくされた。

7. 今回の地震について反省、改善すべき点等

夜間制の生徒に対し休校にする旨の連絡がとれず、地震後登校した生徒がいた。

現在は、掲示板と P T A のメーリングリストで情報を流すこととしている。

今回は、登校している生徒がごくわずかだったため大きな混乱はなかったが、例えば、夜間制の授業中に地震が発生した場合、停電の暗闇の中で、校舎が大きく破損し、通信手段や交通機関もマヒしている状況では、生徒を学校で預かるにしても、自宅へ帰宅させるにしても、対応する手立てがなく大混乱になったと思われる。

このため本校では、平成 23 年度に、夜間制において、停電を想定した避難訓練を実施した。ただし、体育館の耐震補強が平成 24 年度中に完成するまでは、安心できる避難場所が屋外に限られているため、雨天時の避難方法に課題が残っている。